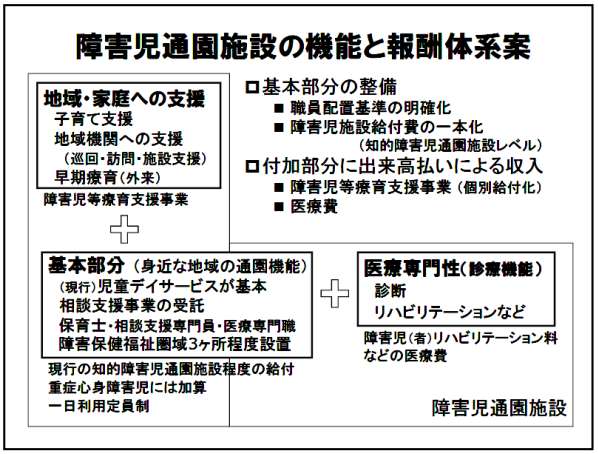
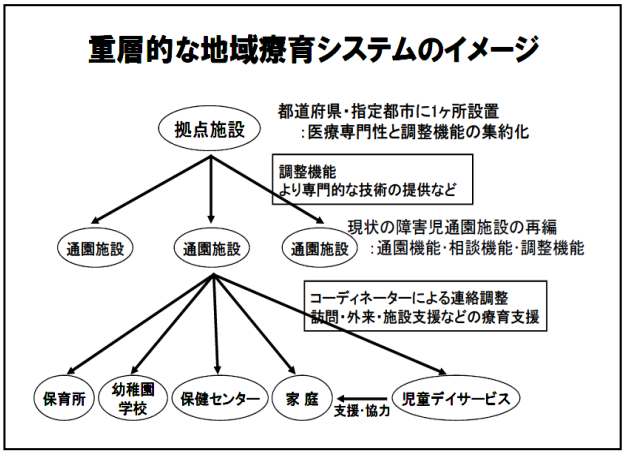
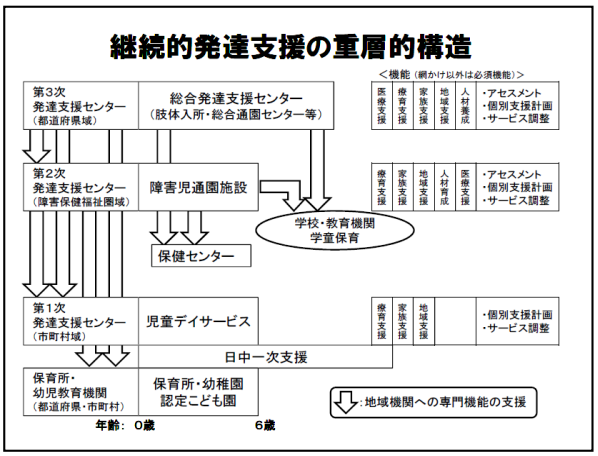
＜図２＞


障害児通園施設の機能と報酬体系案
地域・家庭への支援
子育て支援
地域機関への支援
（巡回・訪問・施設支援）
早期療育（外来）
障害児等療育支援事業
基本部分（身近な地域の通園機能）
（現行）児童デイサービスが基本
相談支援事業の受託
保育士・相談支援専門員・医療専門職
障害保健福祉圏域3ヶ所程度設置
現行の知的障害児通園施設程度の給付
重症心身障害児には加算
一日利用定員制
医療専門性（診療機能）
診断
リハビリテーションなど
障害児（者）リハビリテーション料
などの医療費
障害児通園施設
□基本部分の整備
■ 職員配置基準の明確化
■ 障害児施設給付費の一本化
（知的障害児通園施設レベル）
□付加部分に出来高払いによる収入
■ 障害児等療育支援事業（個別給付化）
■ 医療費

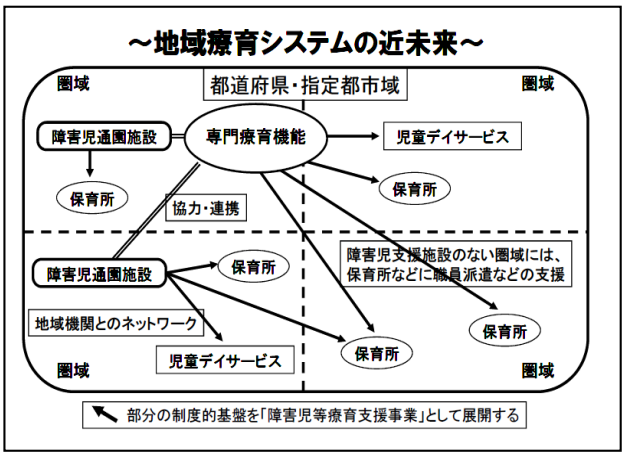
＜図３＞


重層的な地域療育システムのイメージ
拠点施設
都道府県・指定都市に1ヶ所設置
：医療専門性と調整機能の集約化
調整機能
より専門的な技術の提供など
通園施設
通園施設
通園施設
現状の障害児通園施設の再編
：通園機能・相談機能・調整機能
コーディネーターによる連絡調整
訪問・外来・施設支援などの療育支援
保育所
幼稚園
学校
保健センター
家 庭
支援・協力
児童デイサービス

＜図４＞


継続的発達支援の重層的構造
＜機能（網かけ以外は必須機能）＞
医療支援
療育支援
家族支援
地域支援
人材養成
・アセスメント
・個別支援計画
・サービス調整
第3次
発達支援センター
（都道府県域）
総合発達支援センター
（肢体入所・総合通園センター等）
第2次
発達支援センター
（障害保健福祉圏域）
障害児通園施設
学校・教育機関
学童保育
保健センター
第1次
発達支援センター
（市町村域）
児童デイサービス
日中一次支援
保育所・
幼児教育機関
（都道府県・市町村）
保育所・幼稚園
認定こども園
：地域機関への専門機能の支援
年齢：
0歳
6歳

＜図５＞


～地域療育システムの近未来～
圏域
都道府県・指定都市域
圏域
障害児通園施設
専門療育機能
児童デイサービス
保育所
保育所
協力・連携
障害児通園施設
保育所
障害児支援施設のない圏域には、
保育所などに職員派遣などの支援
地域機関とのネットワーク
保育所
児童デイサービス
保育所
圏域
圏域
部分の制度的基盤を「障害児等療育支援事業」として展開する